



# 善正寺だより

掲示板法話

## 浄土に至る道こそ

### 生まれ甲斐ある人生

十一月になると、年賀状が売り出され、一年の終わりが近づいたという、慌ただしい気分になります。

私の手帳には「今日は新年から何日経ち、残りが何日」という数字が記されています。因みに「十一月一日は新年から305日経ち、残りが60日」。そのさりげない数字を見て、「我が人生はあと何日残っているのか?」と問い直してみると「それは分からない!」。愕然とします。まさに「今日とも知らず、明日とも知らず」(蓮如上人『白骨章』)の命なのです。

我々は「人生百年時代」という流行り文句に夢を見て、年金不足の不満を言い、健康と寿命の延長に汗を流しています。だが、どれほど医療の進歩によって平均的な寿命が伸びるとしても、いつかこの世の命を終えるのは100%確実です。だから、「今死んでも悔いはない」という命の大転換を果たさなければ不完全燃焼のまま、空しく過ぎていく外ありません。「命の大転換」とは「限りなきいのち」(無量寿、無量光)を賜り、老病死の苦を超えて浄土に至る道を歩むことです。そこに



本当の生き甲斐、生まれ甲斐ある人生が開かれるのです。

独り暮らしの九十代の女性が毎日お仏壇の前で「正信偈」を読む時、かわいいインコがずっと、肩の上に乗ってお経を聞いている。そこでそのおばあちゃんはインコに向かって「あなたも仏さまのご縁があるんだね。今度生まれ変わる時には必ず、人間に生まれ仏さまに成るんだよ」とインコにいつも呼びかけているそうです。「インコはヒトの言葉の真似もできるので、きつとあなたのお念仏の声も聞こえています。だから既に、仏に成る道につながっていますよ」と一緒に喜ばせて頂きました。一切衆生を必ず救い、仏にすると阿弥陀様はお誓いですから、それは真実なことでもあります。左記は信楽峻磨先生(元龍谷大学長)の「わが生命」という歌です。

わが生命 はじめなきより この世まで 闇から闇へ さまよいて 今ここに在り 遙かに想う

わが生命 仏の光聞きえてぞ ただ

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:059-331-1670  
fax:059-332-0733

### ☆行事ご案内☆

#### ◇報恩講 講師 藤 大慶先生(京都府)

11月2日(土)午後1時半、夜6時半

夜:親鸞様ご生涯の映像、音楽法要、琴演奏と歌、法話  
お非時は2日午前11時より12時まで誰でも大歓迎

11月3日(日)午前10時 (弁当用意)



◇秋勸進11月23日(土)午前8時より行事様、世話方様

住職が手分けして巡回します。ご協力よろしく申し上げます

◇お内仏報恩講12月7日(土)午前10時半 お弁当用意

◇第9回百五銀行阿倉川支店門徒展10月1か月間と11月2日3日の報恩講で本堂にも展示、人形、絵手紙、布絵、書道、写真

◇絵手紙教室11月12日(火)10時、49回目初心者歓迎

◇キッズサンガ11月9日(土)4時鐘撞きは毎日5時

◇初参式赤ちゃん、幼児募集来年4月18日(土)1時、千円

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、一年分の寺報閲覧  
毎日更新のブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評、  
開設11年で30万3千訪問、コメント、悩み相談歓迎、即返信

◇一縁会テレホン法話059・354・1454で3分法話聞けます!

◇新納骨堂:後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所でお困りの方、寺にご相談下さい。本堂使用可

念仏と 育てられ まことの智慧に  
生かされて生く  
わが生命 やがて終の日 迎うとも  
法爾の流れに 身をゆだね 有無をは  
なれて ひとすじの道  
永遠の昔から闇の中をさまよい続  
けてきた私たちが、弥陀の呼び声に遇  
い真実まことの智慧を頂いて、この世  
の命をいつ終えても娑婆の苦惱を乗  
り越えて、仏に成る道が開かれる。こ  
の道を言葉の通じ合う有縁の仲間と  
共に念仏の教えを聞いて、浄土に至る  
悔いなき人生を歩みたいものです。

### ☆ 写真アラカルト ☆ ; 満堂の聴聞、追悼法要



### 坊守スケッチ

## 同悲の涙



親しい仙台の友人が、先月突然お浄土に旅立ちました。死因はすい臓がん発見された時には手遅れでした。私よりも二十歳も若く独身女性。一人娘で働きながら入院中の父親の看病と認知症の母親の介護中でした。二両親様のお嘆きと悲しみは如何ばかりかと拝察します。彼女の恩師からも「立ち上げられない程の衝撃です」との手紙。私とは同じ趣味仲間で、中心的存在の彼女とは何度も交流がありました。メールや携帯番号に繋がれば、今でもすぐに彼女と通じるような錯覚をします。「そうか。もうあなたはいないのか」と自分に言い聞かせます。彼女を失った仙台の仲間や恩師、二両親の悲しみを慮るとお悔みの言葉も思い浮かびません。共に涙を流すような心境です。

ところで朝の散歩中にお仲間達との会話で、私はハッと気づかされることがあります。「最近はお子さんを虐待して殺す事件が多いわねえ」「昔は親が率先してわが子を守ったのに残念」「私が小6の時、担任の男性教師が、皆に迷惑を掛ける悪ガキに二、三発平手打ちをくらわした。勿論悪ガキは大泣きしたけれども、先生の目にも大粒涙が流れて、見ていた他の生徒達はビツクリ。私も先生の涙を一生忘れないわ、今から思うと、先生も悪ガキが暴力を振いたくなるような家庭環境の中で育ち、それを知った上の叱責だっ

た。だから涙を流されたのだと思うわね。まるで仏様のような先生だったわね。仏教ではそれを『同悲の涙』というのをお説教で聞いたわ。他人の悲しみや苦しみを、わが悲しみや苦しみにするというのが仏様のお慈悲の基本。今は本気で叱る親も先生もいない。甘やかされて育った子供が、勝手気ままな大人になり、他人を思いやる心も持たず、益々世間を狭くしているのね」人は誰しも悲しい時や苦しむ時に、誰かにそっと寄り添ってもらいたいものです。苦しい胸の内を誰かに打ち明けたいものです。その誰かに私が選ばれるように、『同悲の涙』を流せる坊守になるために、これからも聴聞に励みます。

☆報恩講 11月2日(土) 午前と夜3日(日) 午前のみ。但し2日11時より正午お非時接待あります。(講師)京都のんびりに苑理事長・藤大慶先生

2日夜には琴の演奏と歌があります。

カンパありがとう

山中つや子様、他匿名様よりお志や葉書等、感謝。

### 寄稿

老猫の蠢斯追ふ眼の光る 釋清風  
孫の描く似顔絵似ずも敬老日  
贈らるる新米の香や粒光る  
鐘つきの子ら合掌す秋夕焼

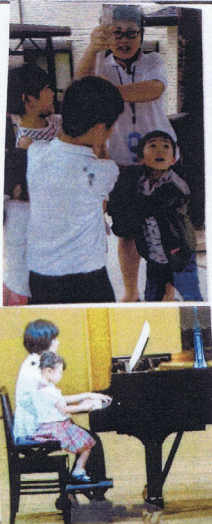
### ☆寺院夫婦の「育自な日記」59

九月最後の週末、家族で四日市市立博物館へ行きました。子ども達はプラネタリウム、私は「特別展ウィリアム・モリス」が目的です。

プラネタリウムは常に人気で早めに行きチケットを購入します。プラネタリウム入場開始まで「ウィリアム・モリス展」を鑑賞したのですが、退屈な子ども達はさっさと見終わってしまいました。

そこで特別陳列「伊勢湾台風」を見ながら、途中の常設展「時空街道」に子ども達は釘付け！ここでは四日市の原始・古代から江戸時代までの歴史を扱い、当時の人々の生活が原寸大の人形でリアルに再現されています。ボランティアの方が四日市の歴史や展示の解説もしてくれました。江戸時代の四日市宿の旅館にたどり着いた旅人、お膳を運ぶ女中さんなどが今にも動き出しそうで子どもだけでなく大人も引き込まれます。

あまり熱心に見ていたのので、「伊勢湾台風」まで辿り着けず、時間切れ！長男が残念そうにしていたので、「また来週来よう！」と約束したのでした。その前に私はもう一度、ゆっくり「ウィリアム・モリス展」を見たいなあ…。



### ホットニュース

◇報恩講お非時 11月2日午前11時〜12時まで。どなたでも大歓迎！ぜひ一度お召し上がり下さい。準備の都合上、人数などご連絡頂くと有難いです。

◇9月22日(小杉町仏教会主催)「追悼法要」に遠近多数の皆様がご参詣頂きありがとうございました。次々に椅子を補充する程の人数ぶりで満堂。さすが今一番注目されるご講師さんです。

「釈徹宗先生のお話をもう一度聞きたい」分かり易かった等の感想が寄せられました。お世話下さった三団体の役員様方に厚く感謝申し上げます。新鮮な感動と心のお土産を頂戴しました。

☆お寺で「歌声喫茶」次回(9回目) 11月21日(木)午後1時庫裏。第三木曜催初参式の赤ちゃん・幼児を大募集。

☆一縁会テレホン法話。059・354・1454お電話を！結成36年、来年には第18冊目のテレホン法話集発行予定。乞うご期待を！

平成31年度後半・善正寺行事案内

☆秋勧進 11月23日午前8時

☆お内仏報恩講 12月7日午前10時半

### ☆編集子より

「善正寺だより」三百十一号をお届けします。◇「友送り送りし友に導かれ老いの小径に咲きし白蓮」、これは法友との別れを詠んだ一首。悲しみの中に法縁を偲ぶ心情が込められ、「仏法に遇うてよかつたですね」と遠く宿縁を慶ばせて頂く次第。◇台風禍に予定変更相次ぐ秋。後生の一大事忘れずに。

報恩講シズンです。「報恩講って何？」と尋ねたら「浄土真宗の伝統行事とか門徒だからお参りするだけ」という返答。これではNHKの人気番組「チコちゃんに叱られる」のでは？  
でもそも報恩講とは八百年前に浄土真宗を開かれた親鸞聖人のみ教えが、今も伝えられて私達の生きる指針となり「親鸞様ありがとう」と共に感謝する法要です。自分の親さえも感謝していないのに、何故そんな昔の人に感謝しなければならぬのだと反発する人もいます。よう、  
真実の教え（光）に遇わずに、自分の殻に閉じ籠って悩みを深くするのが現代の闇です。先日法友から葉書が届きました。「最近耳が遠くなり補聴器を付けました。一時は聴聞も諦めました。がご法話で素敵な言葉に出遇いました。」世間に見捨てられ、自分に見捨てられそうになっても、それでも見捨てぬ阿弥陀様がいらっしゃる。この言葉に出遇ってから、元気をもらい、聴聞を復活。耳が遠いのは悪いことばかりではありません。世間の雑音は聞こえませんが、肝心要のお言葉だけは聞こえます。彼女のようにならば、真実の言葉に出遇った人は、たとえどんな苦難が待ち構えていようと、仏縁を慶ぶ手ばかりと受け止められるのです。報恩講を勤める意味がここにあります。毎日の美味しい食事が体の栄養源ならば、良い言葉は心の栄養源。あなたも良い言葉に出遇って、生きる希望を見つけましょう。比叡様のご参詣をお待ち申し上げます。合掌

令和元年十一月

善正寺 方守 拝